

平成 29 年度第 1 回滑川市地域公共交通会議 会議録

開 催 概 要 s

- 日 時 平成 29 年 7 月 3 日 (月) 午前 10 時～11 時 30 分
- 場 所 滑川市役所本館 3 階大会議室
- 出席者 委員 16 名

出 席 状 況

■委員名簿

選出区分	団体名・役職名	氏名	出欠等
学識経験者	富山国際大学現代社会学部教授	長尾 治明	本人出席
住民又は利用者の代表	滑川市自治会連合会長	澤田 隆之	本人出席
住民又は利用者の代表	悠友クラブ滑川会長	柿澤 清喜	本人出席
住民又は利用者の代表	滑川市小中学校 P T A 連合会長	石坂 教洋	欠席
住民又は利用者の代表	滑川市民生・児童委員協議会長	砂子 良治	欠席
住民又は利用者の代表	滑川市連合婦人会長	原 洋子	本人出席
住民又は利用者の代表	滑川商工会議所専務理事	森 忠雄	本人出席
一般乗合旅客自動車運送事業者の代表者	富山地方鉄道株式会社 自動車部副部長 (運行管理課長)	藤城 哲治	本人出席
一般貸切(乗用)旅客自動車運送事業者の代表者	㈱佐々井タクシー代表取締役 (コミュニティバス運行業務委託業者)	佐々井 光國	本人出席
一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転者が組織する団体の代表者	富山県交通運輸産業労働組合協議会 議長	石橋 剛	本人出席
鉄道事業者の代表者	あいの風とやま鉄道株式会社 総務企画部企画課長	寺井 宏友	本人出席
鉄道事業者の代表者	富山地方鉄道株式会社 鉄軌道部運転管理課長	清水 浩二	代理出席 伊東 信男
国土交通省北陸信越運輸局富山運輸支局長又はその指名する者	北陸信越運輸局富山運輸支局 首席運輸企画専門官 (輸送・監査担当)	中村 幸春	欠席
国土交通省北陸信越運輸局富山運輸支局長又はその指名する者	北陸信越運輸局富山運輸支局 首席運輸企画専門官 (企画調整担当)	山岸 忠政	本人出席
富山県滑川警察署の職員	滑川警察署交通課長	堀田 浩範	本人出席
富山県の職員	富山県観光・交通・地域振興局 総合交通政策室次長	長田 知	代理出席 木田 猛
富山県の職員	富山県新川土木センター 工務第一課長	川口 歳則	本人出席
滑川市の職員	滑川市副市長	石川 忠志	本人出席
滑川市の職員	滑川市産業民生部長	碓井 善仁	本人出席

■事務局

産業民生部生活環境課 黒川課長、平野係長、谷川係長

会 議 次 第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 座長あいさつ
- 4 協議事項
 - (1) 滑川市地域公共交通網形成計画の策定スケジュールについて
 - (2) 本市の地域特性と公共交通の現況整理について
(「滑川市地域公共交通総合連携計画」の評価及び課題を含む)
 - (3) アンケート調査の実施について
- 5 閉会

会 議 録

1 開会

【事務局】

ただいまより、「平成 29 年度第 1 回滑川市地域公共交通会議」を開催いたします。皆様には、何かとお忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございます。本日司会を務めさせていただきます、生活環境課長の黒川です。どうぞよろしくお願いいたします。

次に、本日出席の委員の皆さまをご紹介します。

～ 事務局より各委員の紹介 ～

なお、本日の会議は、中村委員、石坂委員及び砂子委員は、ご都合により欠席されております。

それでは、本会議の会長であります、石川副市長がご挨拶いたします。

2 会長あいさつ

～ 石川会長あいさつ ～

【事務局】

ありがとうございました。

次に、本会議の座長につきましては、例年どおり、長尾委員にお願いしたいと思っております。委員の皆様の拍手をもってご承認を賜りたく思います。

～ 一同拍手 ～

それでは、長尾委員に座長をお願いしたいと思っております。

3 座長あいさつ

～ 長尾座長あいさつ ～

4 協議事項

【長尾座長】

それでは協議にうつります。お手元の議事次第に従って進めていくことにいたします。4 協議事項の(1)滑川市地域公共交通網形成計画の策定スケジュールについて、事務局より説明をよろしくお願いいたします。

【事務局】

(1)滑川市地域公共交通網形成計画の策定スケジュールについて
～ 事務局説明 ～

【長尾座長】

ありがとうございました。ただいまの策定スケジュールにつきまして、何かご質問、ご意見等ございますでしょうか。今年度の会議は4回開催予定となっております。委員の皆様方は、このスケジュールに記載のところに会議が催されるということで予定をしておいて頂ければと思います。

続きまして、協議事項(2)の、本市の地域特性と公共交通の現況整理について、事務局より説明をよろしくお願いいたします。

【事務局】

(2)本市の地域特性と公共交通の現況整理について
～ 事務局説明 ～

【長尾座長】

ありがとうございました。では、ただいまの説明に対して、ご意見、ご質問等あればよろしくお願いいたします。

【山岸委員】

いくつか思ったことを申し上げます。

まず、資料の2ページに、人口分布を示していただいておりますが、地図の上で目で見て分かるように、例えば500メートルメッシュなど、分布を色分けして図に落とししてみると、より分かりやすくなるのではないかと思いますので、そういった形での整理をお願いしたいと思います。

次に、7ページに公共交通のカバー状況についてお示しいただいておりますが、さきほど申し上げた人口分布の資料と重ね合わせて示すと、バス交通が網羅されているところと、人口の比率が分かりやすくなって良いと感じました。

10ページのバス停ごとの利用状況について、緻密に整理していただいておりますが、とても良いと思います。今後再編していく上で色々考えていくにあたっては、利用者のニーズが大変重要になって参りますので、その点でこのような細かいデータはとても有益であると思います。また、資料の最後、15ページに課題の整理がされておりますように、こういった個別の視点も重要かと思っております。

最後に、5章のまとめのところで、地鉄バスについての現状整理もあればよいと思います。以上です。

【長尾座長】

人口分布は、事務局で整理できそうですか。

【事務局】

後日、委員の皆様方に送付させていただきます。

【長尾座長】

そのほか、お気付きの点、ご意見等ありますか。

【原委員】

15 ページによると、ルートによって利用者が減ってきているとのことですが、どのような方が減っているのですか。例えば、年齢の高い方か、通勤通学の方か、といったところがあるかと思えます。あいの風とやま鉄道さんの利用者が減っていないので、やはり高齢者の方が減ったのかと思えますが、そこまでの分析は難しいのでしょうか。

【長尾座長】

このようなことが分かる資料はありますか。

【事務局】

資料の 10 ページに利用の多いバス停ということで掲載しておりますが、市民交流プラザ前、滑川駅前、厚生連滑川病院前の利用が多くなっております。市で分析しております減少要因としては、既存の利用者が入院されたり亡くられたりするなど、高齢者の減少が多いのではないかと考えております。また、併せて新規の利用者が増えてくれば良いのですが、高齢ドライバーの増加、免許を所持したままの方が増えております。新規の利用者が、利用者の減少に追いついていない状況と考えられます。また、全体的に人口が減ってきているということも要因かと思えます。

【森委員】

参考までに、年齢不詳というのはどのような方なのでしょう。

【事務局】

1 ページ目の表 1-1 のことですね。これは国勢調査の数字をもとにしておりますので、国勢調査の際に調査票に未記入や誤記があった場合、年齢不詳として扱われるということでございます。

【長尾座長】

他にご意見、ご質問等ございますか。

【長尾座長】

データがあれば示していただきたいのですが、65歳以上で今も免許を保有している人口等はわかりますか。

【事務局】

手元に資料はありませんが、調べればわかりますので、また調べます。

【長尾座長】

65歳以上の返納率と保有状況について調べてください。

【長尾座長】

かなり詳細なデータが今回提示されておりますので、このデータに基づいて、どのような問題点や対策があるか、委員の皆様ももっとデータを読みこむ努力をお願いしたいと思います。

【堀田委員】

今ほど65歳以上の免許保有者の話がありましたが、交通課長として事故関係や免許関係について滑川市を見ていきますと、交通事故が減少傾向にある中で、高齢者の事故が減っておらず、高齢者の事故の占める割合は増加傾向にあります。これは滑川市に限らず、交通環境をめぐる問題としてあります。

また、さきほど高齢者のバス利用者が減ってきている一方、免許を手放して新規にバスを利用される方が余りないとのことでした。法改正などもあり、警察としても自主返納を進めているところであり、危険な運転を周囲から言われ、最終的には自分の判断で自主返納される方は徐々に増えております。滑川市だけでなく全体的に増加傾向にあります。

自主返納者は交通弱者となりますのが、滑川市は早い段階で70歳以上にコミュニティバスの3年間無料パスを配るという取組を始めておられます。しかし、今後自主返納をお願いしてく中で、他の市町村では対象年齢の引下げ、例えば70歳だったものを65歳から自主返納の特典を得られるようにするといったことや、「のる my car」だけでなく、それ以外の交通機関、例えばデマンドタクシー導入や、タクシーの金券配布などを行っていたりします。選択肢を増やすことや、「のる my car」の無料パスの更新など、自主返納される方の動機づけとなる施策を考えていただければ、利用者が増えるような形になってくると思います。

【長尾座長】

今のサービスを継続して、さらに多くの人に利用していただけるような改正を今後考えていく必要があります、大変貴重な意見を頂きました。

【原委員】

たくさん乗ってもらいたいとして、無料にしたらもっと乗ってもらえると思いますか。要するに、ニーズがそこまであるか、というところです。供給をしても需要がなければ乗られないわけで、まずそこが重要ではないかと思います。

【長尾座長】

今の話はアンケートにも関わることで、「のる my car」に対するニーズをしっかりと把握していく必要があります。無料になったら増えるようにも思いますが、建前と本音もあり、アンケートの結果が実際の需要になるかといったことについて考える必要があります。また、運行にあたっての維持費とのバランスを考える必要もあります。いずれにしても、「のる my car」への強いニーズがあるかどうか調べる必要があると思います。

【原委員】

これに関して、無料デーではどのぐらい需要があったのか、どれくらい乗られたのか分かりますか？

【事務局】

資料がありますので、後ほどお知らせいたします。

【長尾座長】

続きまして、協議事項(3)について、今までのご意見に関連するかと思いますので、アンケート調査の実施について、事務局より説明をよろしく願いいたします。

【事務局】

(3) アンケート調査の実施について
～ 事務局説明 ～

【山岸委員】

アンケートの発送は郵便で2,000通ということで記載されておりますが、どの程度の回収率であればO.K.という目安はありますか。

また、地区別年齢別でサンプルを確保するとのことですが、地区をある程度のブロックに分けるといった考えはありますか。

【事務局】

回収率については、34～35%を想定しております。

地区別の配布数については、市内を合計9地区に分けて、人口割合に応じてサンプル数を確保できるようにしております。

【山岸委員】

余りに回収が少ない地区が仮にあれば、一人の意見がその地区の意見となってしまう、ということに陥りがちであり心配なので、質問させていただきました。

アンケートの書き方について、問2-2で、通勤通学先の所在地という設問がありますが、住所を書きたくない場合もありますので、学生であれば学校名、社会人であれば会社名を書いていただけるようなものの方が楽なのでは、と思います。

同じように、問3の目的地も書く人の手間を省力化できるような設問にしたらいかがかと思いました。

【長尾座長】

問2と問3の目的地の所在地、通勤通学先の所在地を住所で明記する質問となっておりますが、施設名称でも書けるようにとの意見でしたが。

【事務局】

問1のアに、郵便番号が分からない場合は町内会名を書くような設問がございますが、同じような形で、住所が分からない場合には、通勤通学先を記入していただけるような問にするよう、工夫したいと思います。

問3の目的地の所在地につきまして、移動目的の方で店名、病院名を記載していただく内容となっておりますので、省くか否か検討したいと思います。

【長尾座長】

なるべく回答者の負担が少なく、回答しやすくなるように検討してください。
他にご意見はありますか。

【石川委員】

問5に関して、この設問は意向について聞く設問となっているが、例えば学生さんがコミュニティバスで駅まで来て、そのあと電車で行くというケースが考えられる。そのあたりの設問が一緒になっているが、詳細な結果が得られますか。コミュニティバスへの意向と混ざってしまわないか心配だから質問させていただいた。

また、問7について、地鉄バスも含まれていますが、コミュニティバスと分けなくていいですか。

【長尾座長】

特に、問7は地鉄バスとコミュニティバスを分けた方が良いと思いますが。

【事務局】

コミュニティバスへの意向が分かるよう、地鉄バスと「のる my car」の必要性は分ける方向で調整したいと思います。

【木田委員代理】

アンケートや現状分析を踏まえてバス路線の再編をされると思いますが、いくつかお願いがございます。

ひとつは、「のる my car」に対して現在1,000万円ほど国からフィーダー系統の補助金が入っていますが、富山から滑川へ運行している地鉄バスに「のる my car」が接続している、幹線のバスに接続しているという理由で補助金が入っております。地鉄バスがなくなってしまうと国からの補助が一切得られなくなりかねないので、地鉄バスを大切に活かせる形で再編してほしいと思います。

また、いくら路線を張り巡らせても、やはり乗ってもらうことが必要です。路線の形だけでなく、地元の意見を吸い上げて、地元で利用促進をはかれる、自主的に乗っていただける体制づくりを他市町の事例も参考に考えていただきたいと思います。

【長尾座長】

地元の意見をいかに吸い上げるかについては、地元の人が必要を感じないと、この会議の議論だけでは利用者は増えないと思います。京都などの成功例を見ると、バスがどうすれば利用されるか、学校区単位で工夫している地域はうまくいっているケースもあるので、地域のバスに対する考え方や意見が出る場、仕組みを考えていただけたらと思います。住民から自発的な意見が出てこない、「のる my car」の利用者数は減る傾向ではないかと思います。要望を聞いて、住民に参加してもらおう仕組みもソフトとしては必要かと思いますので、ご検討よろしくお願ひいたします。

【柿澤委員】

会議の目的は「のる my car」だけのものなのか、市の公共交通の計画なのか、そのあたりの視点が見えてこないように思います。細かい現状分析をされておりますが、鉄道と「のる my car」をどう組み合わせるか気になるところです。一方、「のる my car」の目的に通勤通学も入っていますし、そうするとダイヤの組み方も影響出て来るかもしれないし、ニーズをアンケートでとらえる必要があります。通勤通学まで踏み込んで取り組むのであれば、それなりの体制が必要だと思います。鉄道との連携が難しいのであれば切り離して考える話もあるかと思います。もう少し明確にさせていただきたいと思います。

【事務局】

現在もあいの風とやま鉄道のダイヤに合わせてダイヤを組む取組などをしております。それに合わせて何人乗っているか、ということもあります。アンケートの中でそういった利用に対する意見が多ければ、あいの風とやま鉄道との協議の中で取り入れていく必要があると思います。滑川市全体の公共交通を見据え、なおかつコミュニティバスをよりよく利用していただけるような方策を考えていきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

【柿澤委員】

そうであれば、例えば JR の朝の挨拶運動などのときにコミュニティバスや歩く人を目で見る観察だけでも違うと思ひれます。このダイヤについても、本数の問題もあるが、通勤通学に使えるのかという話もあります。通勤に利用できないダイヤとなっている地域もあります。もう少し絞り込んでいったほうが分かりやすい気もします。

【長尾座長】

資料 1 にもありましたが、滑川市の総合的な公共交通網の形成が目的であるので、アンケートでも総合的な視点からの設問を盛り込んだ方が良く思ひますので、工夫していただきたいと思います。

【事務局】

さきほど質問のありました、5月5日の無料デーにつきまして、258人の方に利用いただきました。前日の通常料金時は129人の利用でした。昨年度の同様の取組の際

は、224人の利用がありました。なお、市の広報やHP、車内などで事前通知は行って
おります。年齢的な傾向までは把握しきれておりません。

【長尾座長】

問9でサービスという言葉が頻繁に出てきますが、「サービスを充実させる」とい
うことに何を期待するのか、便数を増やすなど、その中身を聞く必要があるのではな
いでしょうか。難しいかもしれませんが、市民の皆様がどのようなイメージをもって
いるのか、掘り下げても良いのではないのでしょうか。

【長尾座長】

この会議後の後日意見に対する修正の時間はありますか。

【事務局】

アンケートの回収を7月28日までにを行うことを予定しており、逆算すると、計画
では(7月)10日頃の発送を考えておりましたが、本日頂いたご意見への対応もござ
いますので、明日までに事務局まで頂ければと思います。

【長尾座長】

いまいちど、アンケート内容をご確認頂き、ご意見があればメールやFAXで明日ま
でに事務局へ提出いただければと思います。

そのほか、全体を通して何か意見はありますか。

よろしければ、次回は10月の開催予定ですが、具体的な日程に関しては事務局か
ら案内が出るとお思いますので、ご対応よろしくお願ひいたします。

では、議題は以上となりますので、意見がなければ閉会したいと思います。

以上で本日の協議事項を終了いたします。どうもありがとうございました。

5 閉会

【事務局】

長尾委員、ありがとうございました。

また、委員の皆様には長時間にわたり活発にご議論いただきありがとうございました。
以上を持ちまして、平成29年度第1回滑川市地域公共交通会議を閉会いたしま
す。

皆様方には、今後ともご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願ひいたします。
本日は、お忙しい中、ご出席いただき、誠にありがとうございました。

以上